【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】令和6年1月5日(2024.1.5)

【公開番号】特開2022-108037(P2022-108037A)
【公開日】令和4年7月25日(2022.7.25)
【年通号数】公開公報(特許)2022-134
【出願番号】特願2021-2831(P2021-2831)
【国際特許分類】
Ｂ３２Ｂ 27/30(2006.01)
Ｂ３２Ｂ 17/10(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ３２Ｂ 27/30 Ａ
Ｂ３２Ｂ 17/10
Ｂ３２Ｂ 27/30 １０１

【手続補正書】
【提出日】令和5年12月22日(2023.12.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８９】
本発明の基本的な原理から逸脱することなく、上記の実施態様及び実施例が様々に変更可能であることは当業者に明らかである。また、本発明の様々な改良及び変更が本発明の趣旨及び範囲から逸脱せずに実施できることも当業者には明らかである。本発明の実施態様の一部を以下記載する。
［態様１］
透明基材層と、粘着剤層と、着色樹脂層とをこの順で含む建築用積層体であって、
前記粘着剤層が、アクリル系粘着性ポリマー及びアクリル系ポリマー添加剤を含み、
前記アクリル系粘着性ポリマーのガラス転移温度が－７０℃～－２０℃であり、
前記アクリル系ポリマー添加剤のガラス転移温度が２０℃～１２０℃であり、
前記粘着剤層中の前記アクリル系ポリマー添加剤の含有量が、前記アクリル系粘着性ポリマー１００質量部を基準として１１質量部～４０質量部である、建築用積層体。
［態様２］
前記アクリル系粘着性ポリマーが、カルボキシ基含有（メタ）アクリル系ポリマーである、態様１に記載の建築用積層体。
［態様３］
前記アクリル系ポリマー添加剤が、アミノ基含有（メタ）アクリル系ポリマーである、態様１又は２のいずれかに記載の建築用積層体。
［態様４］
前記粘着剤層中の前記アクリル系ポリマー添加剤の含有量が、前記粘着剤層の質量を基準として９質量％～２９質量％である、態様１～３のいずれか１つに記載の建築用積層体。
［態様５］
前記透明基材層の可視光線透過率が５０～１００％である、態様１～４のいずれか１つに記載の建築用積層体。
［態様６］
前記透明基材層が無機材料を含む、態様１～５のいずれか１つに記載の建築用積層体。
［態様７］

前記透明基材層がガラスである、態様６に記載の建築用積層体。
［態様８］
前記粘着剤層の可視光線透過率が５０～１００％である、態様１～７のいずれか１つに記載の建築用積層体。
［態様９］
前記透明基材層が建築物の壁又は窓の少なくとも一部を構成し、第１面及び前記第１面の反対側の第２面を有し、
前記粘着剤層が前記透明基材層の前記第２面の上に配置され、
前記着色樹脂層が前記透明基材層の前記第１面を通して視認される、態様１～８のいずれか１つに記載の建築用積層体。
［態様１０］
前記着色樹脂層がポリ塩化ビニル及び着色剤を含む、態様１～９のいずれか１つに記載の建築用積層体。
［態様１１］
粘着剤層と着色樹脂層とを含む、建築用積層体用装飾フィルムであって、
前記粘着剤層が、アクリル系粘着性ポリマー及びアクリル系ポリマー添加剤を含み、
前記アクリル系粘着性ポリマーのガラス転移温度が－７０℃～－２０℃であり、
前記アクリル系ポリマー添加剤のガラス転移温度が２０℃～１２０℃であり、
前記粘着剤層中の前記アクリル系ポリマー添加剤の含有量が、前記アクリル系粘着性ポリマー１００質量部を基準として１１質量部～４０質量部である、装飾フィルム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
透明基材層と、粘着剤層と、着色樹脂層とをこの順で含む建築用積層体であって、
前記粘着剤層が、アクリル系粘着性ポリマー及びアクリル系ポリマー添加剤を含み、
前記アクリル系粘着性ポリマーのガラス転移温度が－７０℃～－２０℃であり、
前記アクリル系ポリマー添加剤のガラス転移温度が２０℃～１２０℃であり、
前記粘着剤層中の前記アクリル系ポリマー添加剤の含有量が、前記アクリル系粘着性ポリマー１００質量部を基準として１１質量部～４０質量部である、建築用積層体。
【請求項２】
前記アクリル系粘着性ポリマーが、カルボキシ基含有（メタ）アクリル系ポリマーである、請求項１に記載の建築用積層体。
【請求項３】
前記アクリル系ポリマー添加剤が、アミノ基含有（メタ）アクリル系ポリマーである、請求項１又は２のいずれかに記載の建築用積層体。
【請求項４】
前記粘着剤層中の前記アクリル系ポリマー添加剤の含有量が、前記粘着剤層の質量を基準として９質量％～２９質量％である、請求項１～３のいずれか一項に記載の建築用積層体。
【請求項５】
前記透明基材層の可視光線透過率が５０～１００％である、請求項１～４のいずれか一項に記載の建築用積層体。
【請求項６】
前記透明基材層が無機材料を含む、請求項１～５のいずれか一項に記載の建築用積層体。
【請求項７】

前記粘着剤層の可視光線透過率が５０～１００％である、請求項１～６のいずれか一項に記載の建築用積層体。
【請求項８】
前記透明基材層が建築物の壁又は窓の少なくとも一部を構成し、第１面及び前記第１面の反対側の第２面を有し、
前記粘着剤層が前記透明基材層の前記第２面の上に配置され、
前記着色樹脂層が前記透明基材層の前記第１面を通して視認される、請求項１～７のいずれか一項に記載の建築用積層体。
【請求項９】
前記着色樹脂層がポリ塩化ビニル及び着色剤を含む、請求項１～８のいずれか一項に記載の建築用積層体。
【請求項１０】
粘着剤層と着色樹脂層とを含む、建築用積層体用装飾フィルムであって、
前記粘着剤層が、アクリル系粘着性ポリマー及びアクリル系ポリマー添加剤を含み、
前記アクリル系粘着性ポリマーのガラス転移温度が－７０℃～－２０℃であり、
前記アクリル系ポリマー添加剤のガラス転移温度が２０℃～１２０℃であり、
前記粘着剤層中の前記アクリル系ポリマー添加剤の含有量が、前記アクリル系粘着性ポリマー１００質量部を基準として１１質量部～４０質量部である、装飾フィルム。